河田先生と私達

伊原康隆（数学）

河田敬義先生は昭和30年，教養学部教授から本学部に移られ今日に至りました。その間（46年～49年）文部省統計数理研究所長も勤められました。

先生の御研究は整数論・代数学・確率論・位相数学など広い範囲に亘っており，各分野で重要な仕事を遺しておられます。その中心を占めるのは，整数論とくにアベール拡大の理論に関する，昭和25年から35年頃にかけての一連の仕事であろうと思います。詳しい説明は略しますが，ここで先生は，E·Artinの創始による「類構造」の理論の応用によって，従来よりも一層広い範囲の種々のアベール拡大の理論を構成され，特にこの方面で指導的役割を果してこられました。先生の類構造に関する一連の論文の最終篇（先生の58篇におよぶ欧文学術論文のうち51番目）が出たのが昭和35年であり，私はこの頃本学部数学科に進学してきた為か，整数論の研究者としての先生の姿に直接触れさせていただく機会を多く持てる為にはやや遅れすぎたようで，その点残念に思います。

先生は17冊に及ぶ邦文の啓蒙的な入門書も書いておられ，私共多くの者がその書によって新しい分野の勉強をさせていただきました。先生の為された多くの講義も，やはり，啓蒙的であると同時に非常に準備がよく行き届いていて明快であり，聴いている者に意欲と共に一種の安心感を与えて下さいました。

セミナーにおいても，先生は非常によく学生や若い人の話を（ときには変な話でも最後まで熱心に）

河田先生の近影

聴かれて有効な助言や暖かい励ましを与えられました。緊張と不安の連続に毎日を過している「研究者の卵」時代の人間にとって，「いつでもどんな話でも」聴いて下さる先生は非常に有難いものであり，私も何度か心から有難く思ったことでした。

先生は，既に独立して他大学等へ就職した研究者の面倒も（博士論文，留学，国際会議を開いて話させて元気づける，等々）非常によく見てこられ，多くの研究者を育成されました。先生にもり立ててい

ただいた事を感謝している人間は（私もその一人ですが）数知れません。

その他，学会関係の仕事等，管理・運営面の仕事迄，非常に手広く意慾的にこなしてこられたのは驚くばかりです。これらすべて，先生の深い善意と献身のたまものであり，その遺産は私達にとって大変有難いものですが，これらが先生御自身の研究時間の犠牲の上に立っている事を考えると，複雑な気持にならざるを得ません。

いろいろな組織が大きくなった事もありますが，これからは，先生のように各方面に亘って超人的な働きをされる方に待つことなく，東大で引き受ける仕事の種類そのものをもう少し減らしてほしいと，私は思います。科学者に研究時間の寸断を強いる大義名分（公用も含む）は，選ばれた（ごく必要度の高い）ものだけであってほしいと思います。少くもその種類を増やさない為に，私達は各自，自分の時間をより一層大切にすることから出発したい，そしてそれによって他人の時間が大切であることの認識も一層深めてゆきたい，そしてお互いに科学者としての初志を年と共に捨てないですむようになったらと思います。

河田先生の献身的御活躍に感動し深い恩恵にあずかり感謝しながら，一方先生の払われた犠牲，非力な私達，そしてこれからの事などを考えて，日頃思っていた事も合わせてこの機会に書かせていただきました。

御退官後の先生は，上智大学において教鞭をとられます。先生の益々の御健勝を心より祈りつつ，拙い一文を終ります。